

# Talents

---

つながる、わたしたち

高島由美子  
洲崎みどり  
米山和恵  
堀 紀美子

特定非営利活動法人参画プラネット スタッフ

# 「『働く』雑感」

高島由美子

2008年度は、これまでの事務局業務に加え、事業ディレクターなど新たな業務を経験することとなり、折にふれ、「働くこと」「働き方」について考え、思いを巡らすことの多い1年となりました。

## 1 講師体験

9月には参画プラネットのチャレンジデスク事業「ちょっと先行く先輩トーク」で初めての講師を経験しました。今までの私を振り返る中で、今の私が、家庭、仕事、地域、私個人という多くの枠組みの中で相互に作用しながら生きていることを心地よく感じていることを再認識しました。人は身近な人だけに認められるのではなく、社会に認められていることを実感してこそ自分の存在を確認することができるものです。息子が中学の進路学習で、将来の生き方や進路を考える時期と重なり、働くことが心の豊かさや明日への活力を生むことになるという普遍的ともいえる意味を、実感と共に伝えられたことで、息子自身も「労働」を肯定的に捉えることできたはずでした。

## 2 ヤングリーダー会議

10月には、参画プラネットのスタッフとして、内閣府の「男女共同参画ヤングリーダー会議」に出席しました。講義には「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進について」が盛り込まれていましたが、その後のトヨタショックに伴う景気悪化から、「派遣切り」問題がクローズアップされる等々で、「ワーク・ライフ・バランス」はどこかに吹き飛ばされてしまった感じです。派遣村で職を失った人たちがその日の暮らしにも困窮する姿をみて「自己責任」と一蹴し、生活保護受給者が増えるばかりだと嘆く人が、私の周りにたくさんいます。確かに詐欺まがいの行為で利を得ようとする人もいますが、今の状況を「自己責任」で片付けるには無理があります。なんでも社会のせいにするのはおかしいけれど、グローバル化に伴う世界的な経済状況悪化や制度の改悪が個人の意識をも劣化させていることは否めません。まじめに生活し勉強していても、10年後、自分の子どもたちが明るい将来を展望できる社会で暮らせているのかどうか・不安はつきません。

## 3 CSR

2月には参画プラネットの主催事業「地域を育てる企業に変わる！～ISO26000を経営戦略に活かすために～」に参加しました。企業のCSRへの取組みを目の当たりにした私は、労働者の人権にスポットをあてた社会基準（ISO26000）にわずかながら光を感じることができました。人を社会資源と捉える考え方は、長い目で見れば企業の業績アップにつながることを、ISO26000を通して産業界が認識すれば、労働環境が整えられ、ワーク・ライフ・バランスも進むことが期待されます。願わくば、この事業にパネラーとしてご参加くださった社長のよう、自己の経済的利益だけを求めるのではな

い「働くことの意味」を感じられる企業環境をつくるのが社会責任だと感じる経営者が増えてほしいものです。

現在もこれからも「働く」にまつわる女性の困難は、貧困や両立などさまざまな形で存在するでしょう。女性を支援するNPOのスタッフとして、困難を抱える女性たちに対し、共感を持って応援し、自分自身も「働く」を通して、エンパワーメントしつつ、常に新たな課題解決に向けて、今後もチャレンジし続けることをめざしていきます。

## 参画プラネットと私の関わり

### 洲崎みどり

参画プラネットの活動に参加して1年たって、憧れのインフォメーションに入れるようになって、うれしくて楽しくて夢中で働いた半年でした。その頃、大きなミスを何回か重ねてしまいました。当然、周囲の人にも迷惑をかけて落ち込み、ますます仕事が手につかなくなってしまいました。そんな時に出会ったのが、チャレンジデスクの一つの「ちょっと先行く先輩トーク」でした。同じ職場で働いている彼女たちは、どんなきっかけでこの参画プラネットで働くことになったのだろうと、素朴な疑問をもちました。よし、この講座を全回受講してみよう。そうしたら自分の中で何かが変わるかも知れないとずがるような気持ちでした。

第1回を受講した時から、自分がいかにいい加減な気持ちで職場に通っていたかを思い知らされました。いつも明るくふるまっている彼女が、流産の悲しみを乗り越え、参画プラネットの催しに通ううち、スタッフとして働くようになったエピソードは、とても衝撃的でした。

別の回の、パートナーの仕事の関係で海外転勤を何回か経験した女性は、始まる前に私に言いました。「あなたから500円というお金をいただくかわりに、決して後悔させない内容の講座にするから！」彼女の意気込みに圧倒されてしまいました。私は彼女の真剣さの十分の一でも持って仕事をしたことがあったでしょうか。その一言で、目が覚めた思いでした。

ある女性は、大病を患ったときに「自分には、まだ遣り残したことがある」と気づき勉学道を目指しました。その時の家族の協力について振り返りながら、ユーモラスに語っていました。彼女の成長が、そのまま家族の成長でもあります。

本当に、十人十色とはよく言ったもので、どんな偉人の伝記を読むよりも感動を沢山もらいました。ひとり一人が鮮やかな色で、私の目の前で素敵な絵画を披露してくれました。

「ちょっと先行く先輩トーク」は、私に欠けている多くのことを教えてくれたのです。それを、これからの仕事の姿勢に反映させていこうと考えています。

## 一年をふり返って

米山和恵

「個」としての能力を最大限に活かすことのできる社会を目指す」。その言葉に心を強く突き動かされて活動し始め、1年が経ちます。今の私は、昨年受講したキャリア発見塾から確実につながり、前進してきました。今年度、私が常に意識をしていたのは、「つながりを大切にする」、「私の関心の焦点を絞る」という2点です。

「つながり」とは、「個と個のつながり」、「個と社会のつながり」、「そして今と未来のつながり」であって、私自身だけではなく、関わりのある相手も含めて、その主となるものと考えた上で大切にする心を心がけました。「私と相手のつながり」は常に存在します。その中で、業務における私のあり方を模索し、先に働く方々から学びました。そして、インフォメーションにおける対応の仕方を初めとして、講座コーディネーターでは、講座に参加された方々の「つながり」を作るために私ができることを考え、私自身の主体的な参加と毎回の講座新聞を作成しました。そして、講座終了後もそのつながりが続くような形作りを提案しました。

参画プラネットでは、常に、新しい経験の提案を与えられます。それらを、まずはやってみる、という意識で挑戦し、教えていただきながらこなしていくことで、私は前進できたと思っています。それは、私の関心の道を前進しているということであり、今を一生懸命に動くことで確実に未来へとつながっていくことを実感したのです。同時に、これまでの過去もまた、今へとつながる同じ道の上だったのだと考えられるようになり、発見塾でいただいた「無駄なものは何も無い」という言葉を強く思い返すのでした。

昨年知った「男女平等参画社会」という言葉は、私にとって説明のし難いものでもありました。聞けば聞くほどに、全てのことに繋がっていると感じるものの、それが一体何なのかがつかめず、まるで空気を見ようとしているようでした。「男女平等参画」をキーワードに、政策提言を学ぶ人、コミュニケーションを学ぶ人、労働法を学ぶ人と、方向性が多岐に渡っているのを知りながら、一体、私はどこへ向かおうとしているのか？という疑問が湧き、私のこの強い関心の根は一体何だったのだろうか？と考えるようになりました。

「私の関心の焦点を絞る」ために、まずは関心のアンテナに引っかかる本を手当たり次第読み、講座や勉強会へ参加してみることから始めました。その時はそれぞれがばらばらに存在しているような私の選択を、後になって客観的に眺めてみると、少しずつ私の関心が見えてきたように思います。それは「人権」というキーワードでした。生きていく上で、その根本にあるようなものなのに、実は何も知らなかったことに気が付きました。「人権」ということを改めて知ること、学ぶこと。まずはそこから始めて、その先にあるのであろう「男女平等参画」を再度考え、行動する。そして、もう一方で「私自身の関心」の方向性を持つ事柄についても行動を起こす。それがこれからの私の課題となりました。

来年度には、また私にとって新しい経験が待っています。これまで意識においてきた、「つながりを大切にする」ということを引き続き意識して、新しい方向性へ前進して行きたいと思っています。

## 「気持ち」から、はじまる。

堀 紀美子

私が、参画プラネットをとおして変わったことは、「気持ち」です。

参画プラネットで20余名のスタッフが入れ替わり立ち代り、ワークシェアリングをしながら、関わりあって仕事をしていると、孤立しません。ひとことで孤立と表現できますが、これには奥深いものがあります。仕事場で孤立しないでいられるということは、安心して業務を遂行していくことができるということです。こんなに心強いことはありません。

私はこの環境を幸せだと感じています。そしてこの私の気持ちを大切にしたいと思っています。これからもずっと働き続けていく限り、この安心感を大切にしていきたいと思っています。

振り返ってみると私が、参画プラネットと出会って2年9ヶ月が過ぎようとしています。初めての出会いは2007年7月、暑い夏の日。参画プラネットが講師をされていた「第3回ぎふし女性NPO塾」にどうしても参加したくて、開講日の前日に知人から郵便で届いたチラシを握りしめ、アポイントもしないまま電車に乗っていました。会場は岐阜市。名古屋から来たと言えば、無下には追い帰さないだろうと、心のなかで念じながら、凶々しく無礼な私でした。幸いお咎めも受けず、参加できることになった私はとてもラッキーでした。

この当たって砕けろ的チャレンジ精神、フロンティアスピリットを伝授してくれたのは、NPO法人WING21の小澤佳代子さんでした。小澤さんは、私が横浜女性フォーラム主催のルトラヴァイエ再就職支援講座を受けた時の講師をされていました。当時、私は東京で女性の就労支援を中心に活躍されている小澤さんを見て、名古屋でNPOを立ち上げ、女性の再就職支援をしたいと考えていました。

「これだ！」とピンときたときは、後先考えずまず行動してみることが未来の自分を拓くと知りました。なにもしないで最初からあきらめないで本当によかったと思っています。

その結果、NPOへのころざしは、参画プラネットと出会い、ずっと大切にしたい気持ちへとつながって、これから先も私を支えてくれると思います。そして次へのステップは、NPOとして雇用創出の場を提供していくことです。ひとりでも多くの女性が、安心して働ける社会を創るために、私は働き続けていきたいと思っています。